

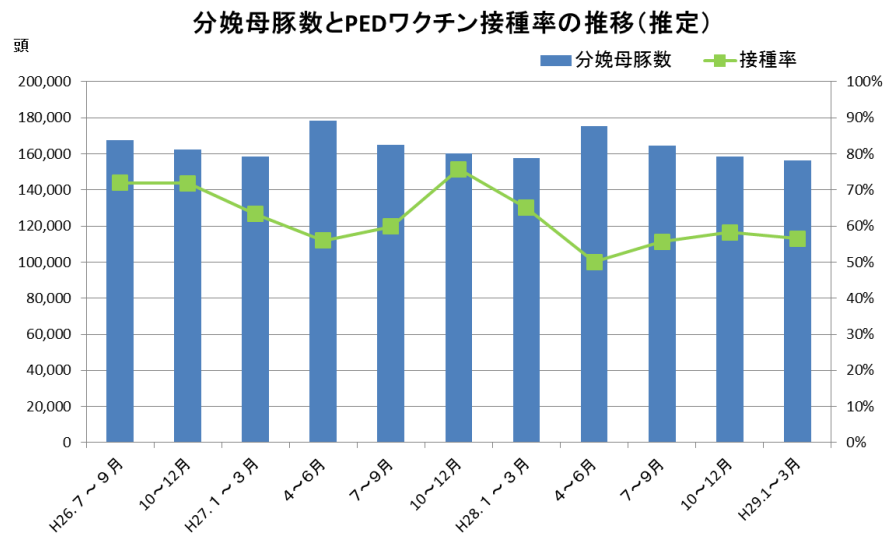
豚流行性下痢（PED）のワクチン接種率の推移について（推定）

- ▶ PEDワクチンの接種率は、ワクチンの円滑な供給対策を実施してきた平成26年5月以降、概ね6割で推移していると推定されます。
- ▶ 本病の被害低減（子豚の損耗防止）のためには、豚舎消毒等の飼養衛生管理と併せて、平時から継続的に妊娠母豚に対しワクチンを使用することが重要です。（「豚流行性下痢（PED）防疫マニュアル」（平成26年10月24日付け消費・安全局長通知）の7. ワクチンを参照）

（参考） 接種率＝ワクチン販売数÷要接種母豚数（推定）×100

	分娩母豚数	要接種母豚数	ワクチン販売数	接種率
平成26年5月～平成27年3月	166,408	332,815	234,055	70%
平成27年4～6月	178,422	356,844	199,911	56%
7～9月	164,801	329,603	196,873	60%
10～12月	160,233	320,466	241,342	76%
平成28年1月～3月	157,683	315,365	204,755	65%
4～6月	175,212	350,423	175,284	50%
7～9月	164,573	329,145	182,912	56%
10～12月	158,368	316,735	183,866	58%
平成29年1～3月	156,138	312,276	176,114	57%

平成26年5月以降の平均接種率＝61%



資料：畜産物流通調査、平成21年度養豚基礎調査全国集計結果、畜水産安全管理課調べ

【注】

- 分娩母豚数：平成23年11月以降のと畜頭数から、離乳後の事故率（9.6%）及び平均離乳頭数（9.2頭）を考慮して推定
- 要接種母豚数：分娩母豚数に接種回数（2回）を乗じた数。
- ワクチン販売数：平成27年2月までは農家からの受注数。平成27年3月以降はメーカーからの出荷数より推計。また、接種時のロス等を考慮せず、全て接種されていると仮定。